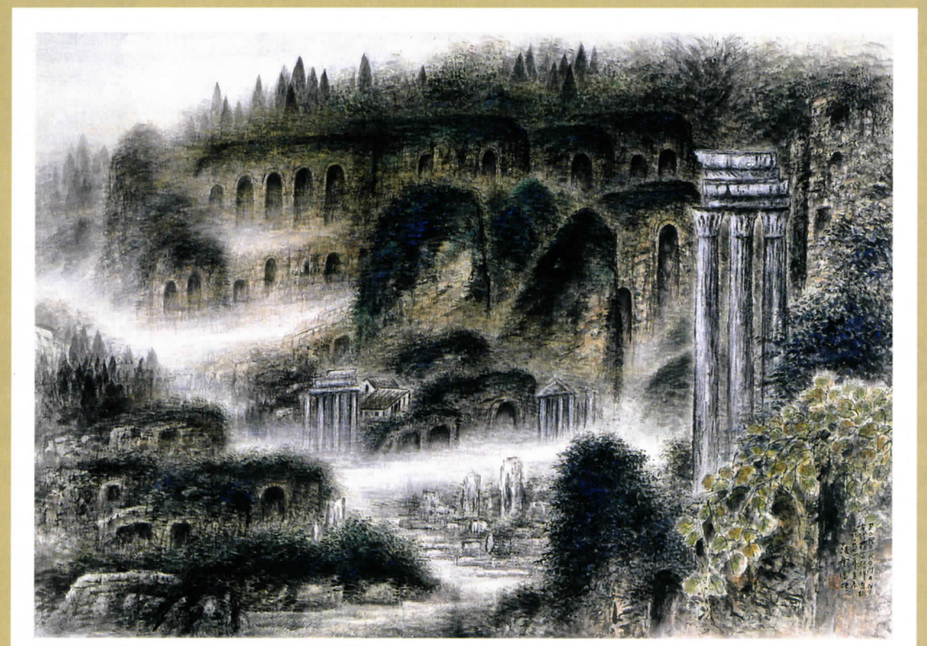
ORANGE

田辺市立美術館NEWS
Vol.11



渡瀬凌雲《フォロ・ロマーノ〈羅馬遺跡〉》　1974(昭和49)年

作品紹介　渡瀬凌雲《フォロ・ロマーノ〈羅馬遺跡〉》　熊野古道なかへち美術館蔵

1972(昭和47)年12月、凌雲は写生のためにギリシャとイタリアを訪れ、古代ローマ帝国の政治・経済・文化の中心地であったフォロ・ロマーノの遺跡を印象深く見学しています。スケッチなどの記録に加え、ここでは沢山のスライド写真も撮っており、制作をはじめから考えていたと思われます。昭和に生きる南画家として、自分たちの時代に合った現代の南画を確立しなければならないと感じていた凌雲は、このように国内外で見つけた新しい画題を積極的に作品にしました。本作では樹木を米点で描き、緑青、群青、辰砂などの岩絵の具を効果的に使って、重厚な歴史を擁した遺跡の雰囲気を表現しています。確かに南画でありながら、離れてみると油彩画を思わせるこの異色作は、1974(昭和49)年第14回日本南画院展に出品され話題になりました。

(学芸員　山本　泰代)

絵画と出会う「この一点！」　田辺市立美術館

★生誕100年記念　浜口陽三　展

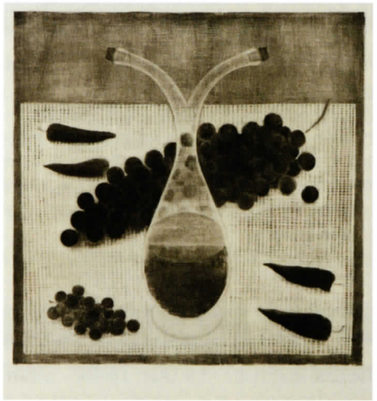
会期:9月19日(土)～12月13日(日)

浜口陽三は1930年、21歳のときに東京美術学校(彫刻科)を中退してパリに渡っている。この時のフランスでの生活は戦争のために1939年に中断するが、戦後再び浜口はパリに向かう。この間、浜口は道具も充分でない中、模索しながら銅版画の制作に取り組んでいた。1953年12月、パリに着いたその夜に偶然画商ヘンス・ベルグリューン(ベルグラン)と出会い、浜口は作品を見せる約束をする。日本から一点も作品を持って行かなかった浜口は、急いで制作に取り掛かり、完成させたのがこの作品だという。

翌年1月、この作品をベルグリューンのもとに持参すると気に入られ、5月に東京で開催された第1回現代日本美術展にも浜口はこの作品ともう一点《ジプシー》を送っている(《ジプシー》は佳作賞を受賞)。

銅版画家深澤幸雄は雑誌『季刊みずゑ』(1985年夏号)での浜口との対談の中で、この作品を初めて見たときの印象を「あまりに深くあまりに美しくて、人間の手でどうしてこんなにきれいなものができるのかと思いました」と回想している。

(学芸員　三谷 渉)



《スペイン風油入れ》1954(昭和29)年　和歌山県立近代美術館蔵
(10月17日～11月15日の期間展示)

美術館あれこれ⑨　美術館が発行する印刷物

美術館が発行する印刷物には大きく分けて2種類あります。1つは広報宣伝用のための印刷物、もう1つは調査・研究の成果としての印刷物です。そのうち広報宣伝用の印刷物には「ポスター、チラシ、チケット」など各展覧会毎に宣伝用に作成される印刷物、美術館そのものを知っていただくための「館案内パンフレット」(当館では三つ折パンフを発行しています)、美術館で開催された事業や予定などをお知らせする「広報紙」(本紙がそれにあたります)などがあります。次に調査・研究の成果としての印刷物ですが、最も多く発行されるものに「展覧会カタログ(図録)」があります。美術館(博物館)では調査・研究の成果を発表する最も効果的な方法として「展覧会(展示)」というかたちを用いるのですが、開催期間や内容などによってはその全てを紹介することに限度があります。そこで、出品された作品の図版・資料・論文などをまとめたものを「展覧会カタログ」として発行することにより、展覧会終了後も調査・研究の成果を永く活用していただこうというものです。また、カタログ発行後に判明した事項や追加調査の内容を「研究紀要」という研究報告書で発表することもあります。

(主任　辰巳　充)

利用案内

田辺市立美術館

■開館時間
午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

JR紀伊田辺駅から明光バス「新庄病院前」下車、徒歩5分。

〒646-0015
和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770
FAX.0739-24-3771

田辺市立美術館分館
熊野古道なかへち美術館

■開館時間
午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

JR紀伊田辺駅から龍神バス「なかへち美術館」下車。

〒646-1402
和歌山県田辺市中辺路町近露891
TEL.0739-65-0390
FAX.0739-65-0393

田辺市立美術館へのきもち②

今年7月、このコーナーの原稿依頼が突然舞い込み、正直驚きました。今年3月末までORANGE編集担当者だった私が、再度作成に関わることになるとは夢にも思いませんでしたが、与えて頂いたこの機会を大切にしたく、美術館元スタッフとして気持ちを込めて語らせて頂きます。

私が美術館に配属されて約3年後の平成17年5月、市町村合併により、田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館、2つの美術館は田辺市立美術館本館・分館という新たな形でスタートしました。同時に広報紙ORANGEを創刊し、私は今年4月発行の第10号まで編集を担当しました。当初は不定期だった発行が、年2回(4月・10月)の発行に落ち着き、上半期・下半期の展覧会紹介やワークショップ等の報告に加えて、特集記事や作品紹介のコーナーも設けるなど、少しずつ充実した形が出来てきました。

月日が経過する中で、美術館の運営は、館員の美術館をより良くしたいと思うきもちや来館者の方々への感謝のきもち、学芸員の作家や作品を大切に思うきもち、作品や資料をお持ちの方々からのご協力の温かいきもち、美術館協議会委員及び選定委員の皆様からのご指導の温かいきもち等々、様々なきもちから成り立っていることを学びました。

貴重な経験をさせていただいたことに感謝し、今後は美術館のファンとして、更なる両館の発展を祈り、これから開催される展覧会の内容を楽しみにしたいと思います。

(田辺市子育て推進課　主査　室井　由美)

編集後記

今回から企画・編集を担当することになりました(早速ですが後姿で登場していますので見つけて下さい)。

前任者に引き続き、美術館の活動をより知っていただけるよう紙面の充実に頑張りたいと思います。

次号は来年4月に発行予定です。　(本館M.M.)

田辺市立美術館NEWS
ORANGE Vol.11
発行年月日：平成21年10月1日
編集・発行：田辺市立美術館／熊野古道なかへち美術館

版画の楽しみ

版を用いて複数の同じ像をつくる技術には長い歴史があり（身近なところでは今も重宝される印鑑もその一つといえます）、そこには製紙技術の発明、発展も大きく関係しています。手作業による版画の制作は、近代以降、機械技術の発展にともなって、複製の技術としてよりも表現手段として注目されるようになってきました。またそれとともに、多くの画家が積極的に版画の制作に取り組み、多彩な技法による個性的な作品が数多く生まれました。その中に銅版画の技法の一種であるメゾチントを復興して類まれな作品を発表し、国際的に高い評価を得た二人の日本人版画家がいます。長谷川潔（1891～1980）と浜口陽三（1909～2000）です。特に浜口はマニエル・ノワール（黒の技法）とも呼ばれていたメゾチントに色彩の表現を持ち込むことに成功し、一層独特の繊細な世界を拓きました。浜口の生誕100年を記念してその制作を振り返る特別展と、近現代の版画の特徴的な作品の数々を紹介する小企画展を9月から12月にかけて同時に開きます。いずれも国内有数の版画コレクションで知られる和歌山県立近代美術館の全面的なご協力によって開催が可能となったものです。

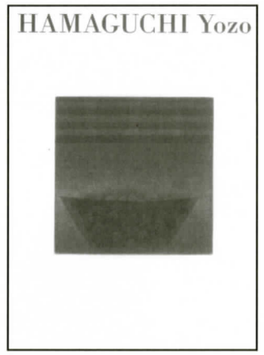
（学芸員　三谷　渉）

INFORMATION

★特 別 展：「生誕100年記念 浜口陽三展」
★小企画展：「版画の楽しみ」

主　　催／田辺市立美術館
特別協力／和歌山県立近代美術館
会　　期／9月19日（土）～12月13日（日）
会期中展示替を行います
第Ⅰ期：　9月19日（土）～10月12日（月・祝）
第Ⅱ期：10月17日（土）～11月15日（日）
第Ⅲ期：11月21日（土）～12月13日（日）
休 館 日／毎週月曜日（但し9月21日、10月12日、11月23日は開館）
9月24日（木）・11月4日（水）・11月24日（火）
※10月13日（火）～10月16日（金）、11月16日（月）～11月20日（金）は展示替えのため休館します。
観 覧 料／一般 600円（480円）、大学・高校生 400円（320円）、中学・小学生 200円（140円）
※（　）内は20名以上の団体料金。土曜日は中学・小学生及び同伴する保護者や指導者の観覧料は無料です。

■記念講演会を開催します。
10月24日（土）「浜口陽三展の舞台裏で」　井上芳子（和歌山県立近代美術館学芸員）
11月28日（土）「浜口陽三入門　人と作品」 三木哲夫（国立新美術館特任研究員）
いずれも午後2時より田辺市立美術館研修室にて開催。観覧料のみ必要、手話通訳もつきます。



和歌山県立近代美術館刊行の
生誕100年記念 浜口陽三展図録
販売価格2,500円

展覧会紹介

田辺市立美術館

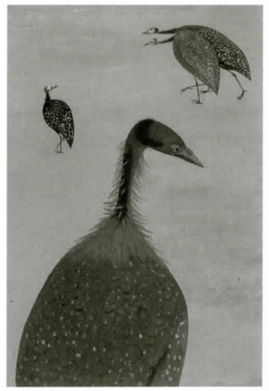
★小企画展　稗田一穂の世界

前期:平成22年1月　9日（土）～2月11日（木・祝）
後期:平成22年2月20日（土）～3月22日（月・祝）

当市中辺路町出身の野長瀬晩花（1889～1964）が創立に参画し、斬新な表現の作品の数々を発表して大正期の日本画の世界に旋風をおこした「国画創作協会」の第1回展（1918年）を、当時18歳だった山本丘人（1900～1986：当館で7月から9月にかけて特別展を開催しました）は東京日本橋白木屋の会場で見て強い感銘を受けます。

三十年後、丘人は意を同じにする仲間たちと、日本画の因襲を打破し、世界に通じる表現を開拓することを旗印に「創造美術」を結成します（1948年）。間もなく丘人たちが主宰する創造美術展において評価され、注目を受けたのが当市出身の稗田一穂（1920～）です。以後一貫して新しい日本画の表現を追求し続けてきた、稗田一穂の作品を特集して紹介する小企画展を開催します。当館が収集を進めてきた作品を軸に、下図や素描なども展示します。

（学芸員　三谷　渉）



《ふさほろほろ鳥》　1956（昭和31）年
田辺市立美術館蔵

熊野古道なかへち美術館

★館蔵品展　野長瀬晩花展ー晩花の花

会期:平成21年10月10日（土）～11月23日（月・祝）

《秋の草花》に描かれているのは、野菊、アザミ、桔梗、萩、芥子、マンダラゲ、カーネーション、パンジー、ススキ、ヒメトラノオ・・でしょうか?

大正期に描かれたと思われますが、描きたい秋の花をあれもこれもと加えていったような楽しい晩花の作品です。

秋を象徴する草花として七草を意識しながら、撫子は同じ花の仲間であるカーネーションに、朝顔はマンダラゲに代えて表現したのではと想像させ、晩花らしい工夫や遊び心が感じられます。

「晩花の花」展では、10代半ばの写生帖にのこる細密な写生画から人生の最終章の大作《五月の花》まで、晩花が生涯を通じて飽くことなく描いた花をテーマに紹介します。

（学芸員　山本　泰代）

《秋の草花》　熊野古道なかへち美術館蔵

REPORT【山本丘人展記念講演会 ー 山本丘人の芸術を貫く「遠い眼差し」】

【日時】8月1日（土）　14:00～15:30　【場所】田辺市立美術館　研修室

生誕110年を記念して開催した今回の「山本丘人展」では、丘人の現代的な日本画の表現を切り拓いた第一人者としての側面とともに、その制作に一貫して流れる抒情性、象徴的な表現に注目して初期の作品、晩年の作品にも重点をおいてその画業を回顧しました。会期中に展覧会の監修者であり、副題の「魂の抒情詩」の発案者でもある中村隆夫多摩美術大学教授にお越しいただいて丘人の表現を分析、解説していただきました。中村教授は西洋美術、フランス文学を専門とされていますが、その視点による解析は新鮮なもので、今後の丘人芸術の研究にも示唆するところが大きいものと思います。

（講演会と同じタイトルで図録に論考も寄せていただいています。残部もありますのでお問い合わせください。）

（学芸員　三谷　渉）

作品の画像とともに、山本丘人の芸術について解説する
中村隆夫 多摩美術大学教授

REPORT【美術館開放講座ー映画鑑賞会「サン・ジャックへの道」】

【日時】6月20日（土）　14:00～15:30　【場所】熊野古道なかへち美術館　展示室

本年は「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されて5年目。この機会に、熊野古道と友好姉妹道であるサンティアゴ巡礼路を舞台にした映画「サン・ジャックへの道」を鑑賞しました。

フランスからスペインの聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラに向かうサンティアゴ（サン・ジャック）巡礼路は、宗教を超え世界中の人々が癒しと再生を願いながら歩いている所。この道を歩きながら自分探しの旅をするともいわれています。

当日はサンティアゴに行ったことのある方や熊野古道の語り部さんたち他、映画ファンだけでなく古道ファンも集合。約50名が、もう一つの古道を歩く感覚を楽しみました。

（学芸員　山本　泰代）

巡礼路を舞台に、だれもが心の旅をする
©2005-Téléma-France 2 cinéma-eniloc

REPORT【雪・天から送られた手紙ーワークショップ】

【日時】雪と氷のワークショップ：7月25日（土）・26日（日）　13:30～15:30
雲 の ワ ー ク ショ ッ プ：8月22日（土）　13:30～15:30
【場所】熊野古道なかへち美術館

特別展「雪・天から送られた手紙」にあわせて二つのワークショップを行いました。

「雪と氷のワークショップ」では、雪の科学館の神田健三館長を講師にお迎えし、世界で初めて人口雪を作った中谷宇吉郎について学びました。研究や人となりについて詳しく紹介されたあと、実験では冷凍庫の中に浮かぶ雲からダイヤモンドダストを作ったり、氷の中に花が咲いたように見えるチンダル像をみるなど、雪と氷の不思議と魅力に触れ、大人も子どもも大喜び。学校の先生が熱心にノートをとる風景も見られました。最後には自宅の冷凍庫で同じような実験が可能かどうかという質問が繰り返し出ました。

「雲のワークショップ」では洋画家の雑賀清子さんの指導で、各自が25ページの小さなパラパラ絵本の作成に取り組みました。和歌山県教育センター理科担当の福田修武さんが撮影した雲の動画を何度も確認し、手元の資料を広げ、皆が熱心に描いた雲は・・・飛行機雲、夜空の雲、夜明けの雲、山上を流れる雲、雨雲から虹の空へなど。色の変化に重点を置いたり、形の変化を強調したり。似たものはなく、様々な雲の表情が机の上に並びました、参加者の皆さんの豊かな想像力に雑賀先生もびっくり。

両ワークショップともに盛況で、楽しく学んだ3日間でした。

（学芸員　山本　泰代）

氷の中に咲く花、チンダル像をのぞく

それぞれの雲を描く

REPORT【地域社会体験研修】

【日時】8月5日（水）～6日（木）　9:00～17:00　【場所】田辺市立美術館

美術館では研修、実習などの受入れも行っています。本年度は8月の2日間、採用から2年目となる中学校教員（国語科）1名の地域社会体験研修を実施しました。

事前に協議を行い、学校教育と社会教育の連携についての見識を形成するために美術館の役割や活動について研修を通じて理解を深めるという目的を確認し、限られた時間の中でしたが、当館のスタッフが行っている種々の仕事を実際に体験しながら知っていただきました。

当館も地域の教育機関相互の連携を進めることを重視しており、こうした研修の実施もその基盤をつくる大切な機会であると考えています。

（学芸員　三谷　渉）

本紙（ ORANGE Vol.11 ）の編集会議にも参加していただきました

休館のお知らせ

田辺市立美術館（本館）は、玄関前の改修および経年劣化による空調設備の改修工事を行うため、平成２２年４月から６月までの３ヶ月間、全面休館を予定しています。具体的な休館の時期やその後の事業などにつきましては、詳細が決まり次第、改めてお知らせいたします。